



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 3267

90.8.10

No.

土岐強知の 徹底強化へ

乗務停止攻撃の 許すな

— 2 —

前号で、千葉転・押垂支部長に対する仕組まれた乗務停止攻撃の実態と本質を明らかにした。本号では、乗務停止(日勤)中の許すことのできない非人間的攻撃の実態を明らかにする。

いじめ、目撃しめ これが会社のやる気だ

会社当局は、建前的には「一運転士として問題があるので再教育する」と言っている。

「問題がある」ということ自体がとんでもないデッチあげであることは前回明らかにしたが、その上でなお「日勤」の実態は「教育」などというものでは絶対にならない。実態は、まさに、「いじめ」であり、「一見せしめ」である。

何のために

まず、本人に対して、「何のために」、「いつまで」「日勤なのか」が一切明らかにされない。

出勤し点呼が終わると「執務標準」と「作業標準」の書き写しを内容とするワープロ打ちの「カリキュラム」が手渡され、助役が「部屋を出るな」、

「サンダルは駄目、服装をただして書き取りをやれ」と言い残して出ていく。そして、三〇分おき、長くても六〇分おきに「見回り」にくる。これが「教育」なのか。断じてちがう。

「会社の奴隷になれ」

これは、「首を切るぞ」と脅かして一室に軟禁し、屈辱を与え、労働者として、人間としてのプライドや安全に対する熱意・考える心を踏みにじり、資本・「上司」の言うことには無条件で従う、そして「会社のためなら、出向にいくことは勿論、死ぬことすらおそれない奴隷にするための攻撃である。」

「不良のしつけ」

次に、これは押垂支部長を狙い撃ちし、「乗務停止・日勤」にし、「いじめ・いやがらせ」を執拗に行って反発を誘い、反発に対する「処分」をもって「不良社員・乗務

不適格」のレッテルをはり、強制配転を強行することを通して動労千葉の組織破壊を狙うという攻撃である。

現に、千葉運転区当局は押垂支部長に対して二回の「否認」をデッチあげている。

一つは、トイレへ行きながら聞いたのでジュースを買い居合わせた仲間の運転士(動労千葉以外の運転士も含む)と三〇四分談笑していたら、助役を連れて出てきた区長が、いきなり「訓練室へ戻りなさい。四分間『否認』にする」といって立ち去る。

もう一つは、二人連れの助役が訓練室へ来て、「書くのが遅い。目の前で書け」と執拗に迫り、口をさくのも嫌になって部屋を出ると、「『否認』にします」。

全支部で攻撃を

「否認」とは職場放棄ということであり、会社当局がこのデッチ上げを口実に「処分」に出ることが必ずである。

この二回の「否認」をとったあと、当局は、押垂支部長を突然「乗務」に戻している。会社当局が、「否認・

土岐禎(千葉運転区長)は
組合つぶしをやめる

処分」のために「乗務停止・日勤」にしたことは、まさに、歴然としているのだ。
千葉運転区支部では、すでに、押垂支部長を先頭に、毅然たる反撃の闘いに突入している。
土岐区長を人間として信用するものは一人もない。出世に目がくらんだ一部職制と、革マル・永島にくっついていて二〇三名が追従するのみである。
人間らしく生きるために！
事故で殺されなかったために！
強制出向・配転を阻止するために！
全支部で、反撃の闘いに決起しよう！